

発達障害リハビリテーション学特論

[講義] 第1・2学年 前期 選択 2単位

《担当者名》大須田祐亮 osuda@hoku-iryo-u.ac.jp

【概要】

発達障害リハビリテーションの対象となる、妊娠期・周産期・新生児期や学童期等の発達段階に関わる中枢神経障害や骨・筋・神経・関節などの発達や発育に影響する障害に対して、科学的根拠を基にしたリハビリテーションの評価法、治療手段について学ぶ。

【学修目標】

1. エビデンスレベルの高い発達障害に対するリハビリテーション評価を説明できる。
2. エビデンスレベルの高い発達障害に対するリハビリテーションの介入方法を説明できる。

【学修内容】

| 回 | テーマ | 授業内容および学修課題 | 担当者 |
|----------|------------------------|--------------------------------------|-------|
| 1 | オリエンテーション | 講義の概要、学習目標・内容、スケジュール、学習方法の説明を行う。 | 大須田祐亮 |
| 2 4 | 発達障害に対するリハビリテーション評価(1) | 発達障害に対するリハビリテーション評価に関する概要を解説し、討議を行う。 | 大須田祐亮 |
| 5 7 | 発達障害に対するリハビリテーション評価(2) | 発達障害に対するリハビリテーション評価に関する文献調査を行い報告する。 | 大須田祐亮 |
| 8 10 | 発達障害に対するリハビリテーション介入(1) | 発達障害に対するリハビリテーション介入に関する概要を解説し、討議を行う。 | 大須田祐亮 |
| 11 13 | 発達障害に対するリハビリテーション介入(2) | 発達障害に対するリハビリテーション介入に関する文献調査を行い報告する。 | 大須田祐亮 |
| 14 15 | 発達障害リハビリテーションの実践報告 | 発達障害に対するリハビリテーションの実践報告を行う。 | 大須田祐亮 |

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部(研究科)、学校の授業実施方針による

【評価方法】

課題およびプレゼンテーション 100%

【教科書】

特に指定しない。

【参考書】

適宜紹介する。

【学修の準備】

関連の文献等関係資料を各自調査し学習すること(80分)。

復習は、プリント、講義メモを活用して学習を深めること(80分)。